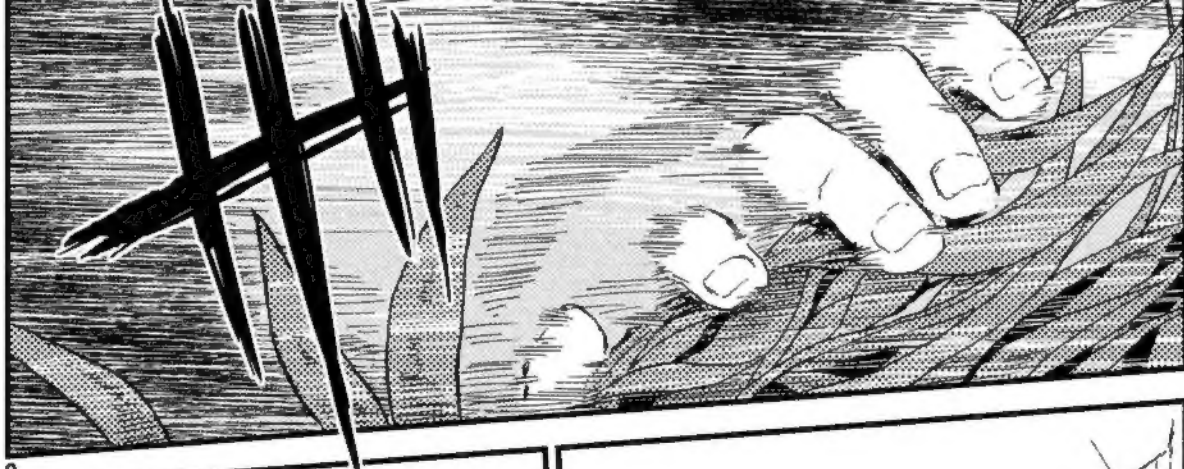
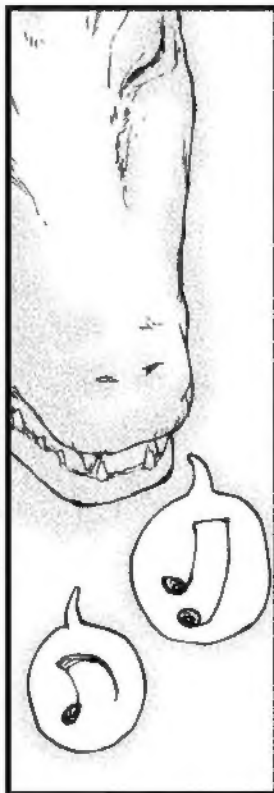
大反響読み切りシリーズ3作目!!

鰐の歌う淵

―音喜多生体奇学研究所―

この連作は

遺伝子操作が産業として発達し、異種動物のキメラ体が生産される世界。水没した街の残骸(ざんがい)で暮らす人々の中には、〝異種キャリア〟と呼ばれる異種遺伝子を持つ者が存在する。その発現具合は個体により様々であり、容姿が変容する事もある。ヒト以外の組織割合などにより「ヒト種優生保護法」の基準を超えると、ヒトとしての権利を認められなくなる。その際、愛玩用・実験用など、経済動物として主に企業により捕獲・転売されてしまうことがある。

大反響バイオSF!
連作3話目66P
交わした「約束」がある限り、「私」は「私」でいることができる。
presented by Reiji Nagata
永田礼路
鰐の歌う淵
―音喜多生体奇学研究所―

音喜多（おときた） 遺伝操作を生業とする生体操作師。自身も何種もの〝異種キャリア〟を抱えており、不意の発現に難儀している。通称・オト。
半年前
ぴぴぴ
ちちちち
ぴーちち
ぴぴ
ぴっ
ガサ

作者近況

永田礼路

前回、前々回の掲載時に感想等いただきありがとうございました。いつも1人でもそもそと描いてるので、とてもうれしかったです。

いい
お前音痴だから
…

人工声帯の調子どう
問題ない
みたいね

飯食えてる?
魚も多いし鳥もいる困らん

結構
まあでかいワニを襲う奴もいなかろうし
ヒトぐらいだ

こんなところに人間が来るか
わざわざこんな辺鄙なとこを選んだんだ
まあな

……辺鄙な場所まで毎月ご苦労だなオトキタ

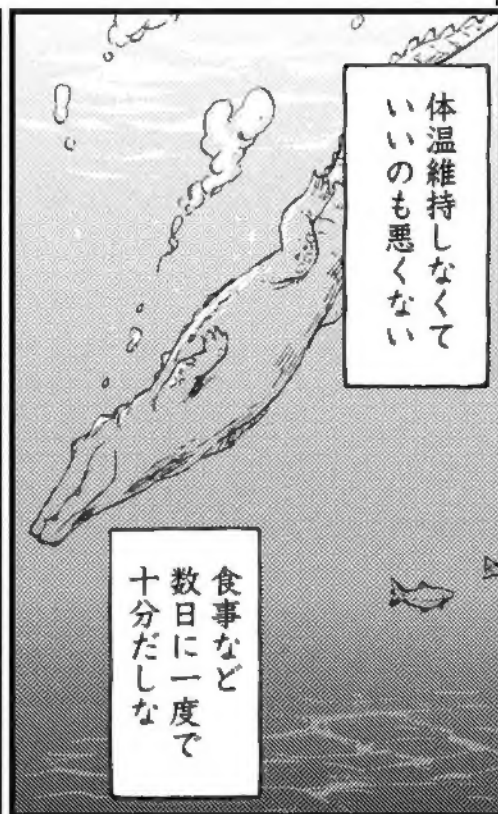
なに月一の遠足だよ
ぷしゅ
飲む?

いらん
ちょっと潜る
昼寝でもしてろ

ダパン

……そりゃあ
私だって経過が気になるさ――

体温維持しなくていいのも悪くない
食事など数日に一度で十分だしな

…ヒトの頃も
これぐらい食わずに済めば良かったろうに

食うに困って
行き倒れなければ
おとなしく
捕まったりは
しなかった
だろうか
こりゃまた
派手に出た
異種キャリアだな
ゴト
自然発生で
ここまでってのも
珍しいな
さすが
水没街産
……言葉は
話せるか
その異種発現は
生まれつきか？
──違う
2年程前から
皮膚が変になって
顔の形が変わった
……水をくれ
……
なるほど
で 仕事をクビになり
食うに食われず
あそこで浮浪者に
まぎれてたのか

……まあ雨風しのげて食い物が与えられるだけマシかもな
……どこに行くんだ
陸の――研究施設だ
細かい事は知らなくていい
少しは教え――
残念ながら
お前にモノを訊く権利はない
私に危害を加えれば即座に射殺する
お前は知らないかもしれないが
お前はとうにヒトとしての線引きから外れている――法的にな
その姿じゃどうせヒトの社会にも入れやしない生き長らえるだけマシと思え
――20年以上
自分が人間以外の何かと疑ったことなどなかった

ならば

ざぼ

おー

遠足の土産(みやげ)だ
ユキハルに
焼いてもらえ

雪晴(ゆきはる) オトの助手兼居候。オトいわく、メシが壊滅的にマズい。通称・ハル。

指でも何本か あげたら
やめろ お前がよこせ
HA HA HA
ヒトは 共食い しねえだろ
あいつ ヒトなんか 食わねえよ
そうだね 彼結構 紳士だものね
前も今も
──彼が 変わらないで いてくれるのは 僕もなんとなく 安心するよ──

……

——?

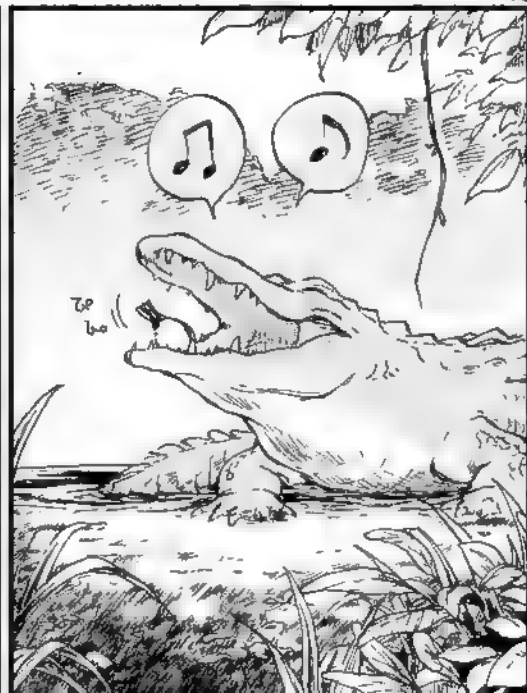
ぴぴ

……ああ
やるよ

ちち

かぱ

人工声帯など
持っていたところで
あの男の他に
話すこともないが

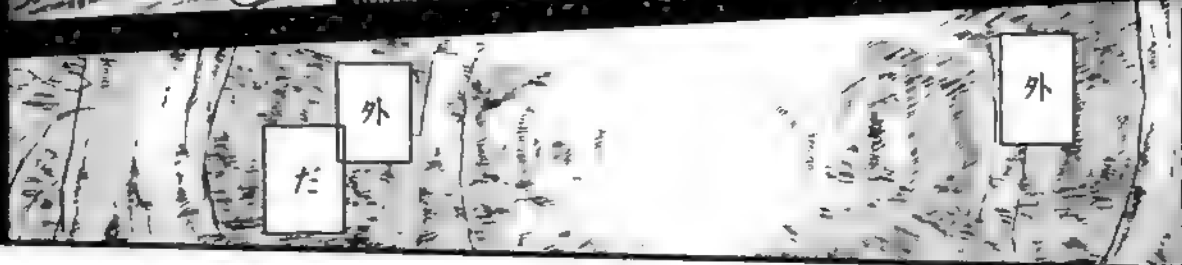
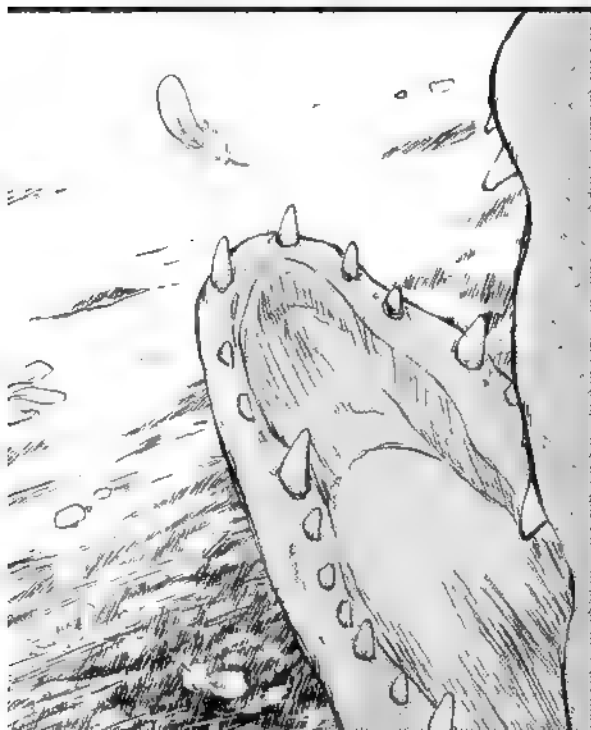
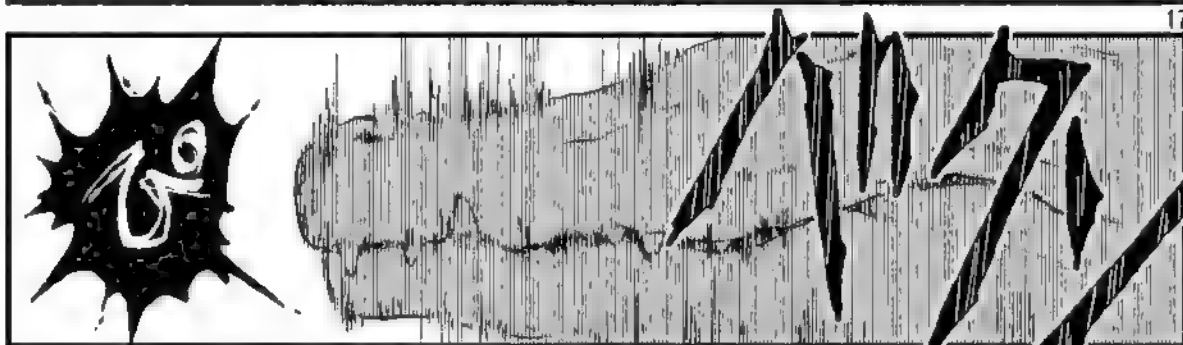
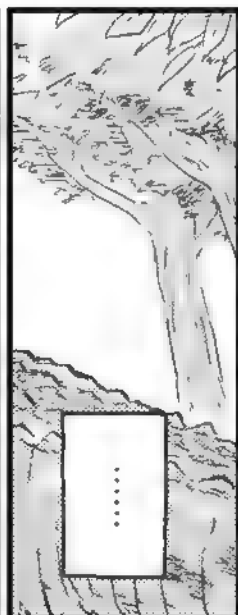
歌が歌えるのは
感謝してる

歌ってると
ヒトだった自分を忘れない気がするから
頻繁に与えられる薬は
熱を出す事もあれば
鱗がはがれ落ちて皮膚が爛れることもあり
それ以上に鱗の部分が広がり変形が進むことがほとんどだった
言葉を発するのもままならなくなり人工声帯を入れられた
……痛い
指とられた
麻酔してくれたのがせめてマシか

脱…分化…し
自律…再生…能の
やはり……
両生類…以上の…
系統発生…体…の
困難……
……次
生えるの
いつだろうか
…また
蛙みたいな
指が
生えるのか
はたして
何年経ったのか
実はそれほど
長い期間では
なかったのかも
しれないが
数十年分も
老け込んだ
心持ちに
なっていた
——出ろ
どうやら
ここから
西の〝都〟に
運ばれる——らしい
——だが

……う
外
外
だ
外……どこへ
こんな
こんな姿で
ザ
ズ
う
——お前
アレに乗ってたのか？

来い
追われるぞ
!!
……?

ぴ
ぴ
……何をしてるんだ
……今一瞬……
"エサ"だと……
すまん……
のそり
……
アレはエサじゃない
……いつもの
……友達だろう
大丈夫
私は
……大丈夫だ

警察はお企業様(スポンサー)のパシリじゃねえぞ……ったく
クッソこの貧乏警察が

加藤木（かとうぎ）警部。警察の活動資金元の企業によく振り回されている。オトにも振り回されている。

ああそれ
輸送中の事故で
逃げた実験用っすね
「再生能に
関しての
被験体であり
その有用性は……」
……知るか
何されてたか
考えたくもねえな
こんなのいたら
目撃報告の一つも
ありそうですけどね
山奥ででも
のたれ
死んじゃったかな
まあ生きてたとこで
このご時世にわざわざ
キメラ体捜しに
山をうろつく奴なんか
いねえしな
そんな馬……
……いや
やりそうな
馬鹿が
ひとり… いるな

20

ぶしょ
うー
ハルー
みずー
水くれー
だーるーいー
ずびー
少しは
自分で動け
酔っぱらって
腹だして
寝てるからだよ
……というか
何か
出まくってるけど
いいの
そのままで
いいよもう
これ以上
拡がんねえし
後で薬打つ
ちくしょう
絶対
あの風邪薬だ
尻尾って
よく考えると
ケツの一部みたいで
恥ずかしいよな
尾てい骨はケツだよな
人前で
振り回しながら
言うな
ケツを
びたーん
びたーん

明日 ウドーのとこに 行くんじゃ なかったのかい
せっかく イッケのとこで生鶏わけてもらったのに 悪くなるよ
……うー
お前代わりに 行ってきてくれよ
いいけど
…あー
……一応猟銃 持ってけよ
お前暫く 会ってないから 一応な
まず大丈夫だよ 先月も 変わりなかったし
大丈夫だよ

22

ぴちちち
♪
♪♪
戻ってきてくれたけど
警戒して口には寄らなくなってしまったな……
♪
♪
♪
…この続きどう…だったたか
♪……♪
……違うな
ザザ
──？
──ウドー
僕だよ
雪晴だ
お久しぶり

——あ
ああ
ご無沙汰だな

はい
こないだ
どうも
ありがとう

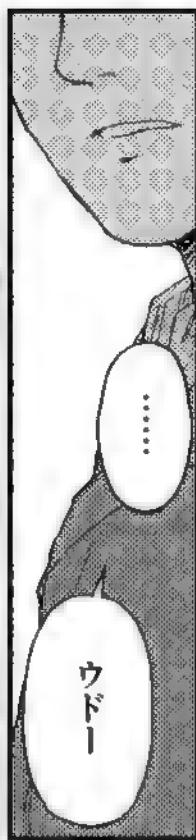
うまい
ハムハム
鶏は
いないでしょ
この辺は

やっぱり
火の通ったのは
駄目なのかい
不味い
生のほうが旨い

ものの感じ方は
身体に
よるってのも
不思議な
もんだな
ゲフ
もっとも
お前達のとこに
きたときには
もう生肉のが
好きだったが

そうだね
頭はもう変形してたものね
……オトキタはまだ気にしてるのか
――？
私を――こうした事を
……もうあれから2年近く経つ
……どうして？
毎月こんなとこまで様子伺いに来る程律儀な奴か？
よほど――気にしているのかと
……
気にしてるというか――

他人事と思えないのかも知れないね
お前は――よく住めるなあいつと
普通は気味悪かろう
……お前も「混じりもの」なのか？
いや
僕は違うキャリアでもキメラでもない
ただのヒトだよ
もう随分経つし
朝起きて居間にいるのが虎でも驚かないよ
……もしその虎がお前を襲ってきてもか？

……
ウドー
さっき
僕の顔見て
誰だか
わからなかったん
じゃないか？
ウドーが
一瞬でも
エサを
見るような目で
僕を見たのは
初めてだ
……オトが
毎月ちゃんと
やってくるのは
ウドーとの
約束を
覚えてるからだよ
……ウドー
……オトとした約束を
無しにするかい？
ウドーが
望むなら
それでも
いいと思うんだ
ウドー以外に
決められる
ことじゃないよ

――いい

覚えていてくれるならそのままで…いい

――わかった

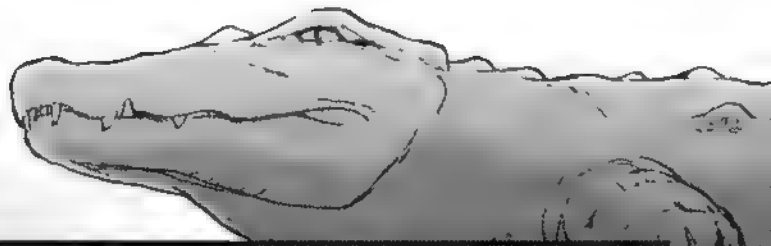
僕も

約束は覚えてる方なんだ

だけど本当は忘れてしまえるぐらい

何もないことを願ってるよ

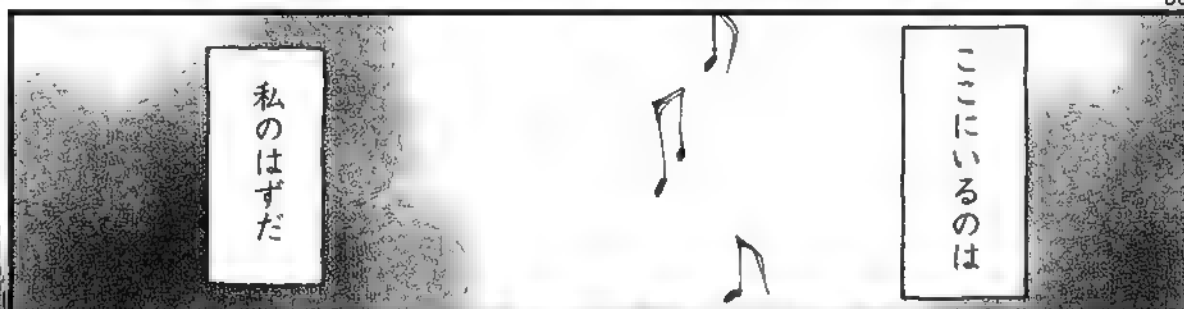
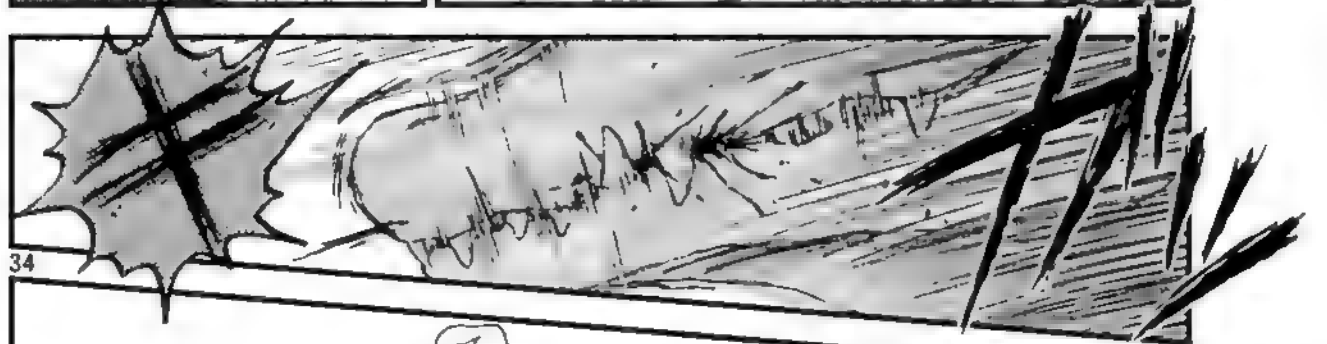
じゃあ

また今度

……つい
見つけた成り行き上連れてきちまったが
ウドー
お前に私がしてやれることは
あまりない
見ての通り鰐のキャリアだが元々の潜在分が多い上に既にかなりの分が発現してる
ヒト分との置換は無理だ
かといって異種分を欠損させたら死んじまう
……このままだとどうなる?

もう背骨まで変形が進んでる
おそらく近いうちに立って歩く事もできなくなる
どこまで進むかはわからないが……ほぼ全身かもしれれん
……どちらにしろ
街になど戻れんな……
……かといって隠遁して生きてくのも不自由な身体じゃ厳しそうだ
……
……いっそ……
何だ？
…死んだ方がマシか？
……いや
……いっそ
鰐になるか？

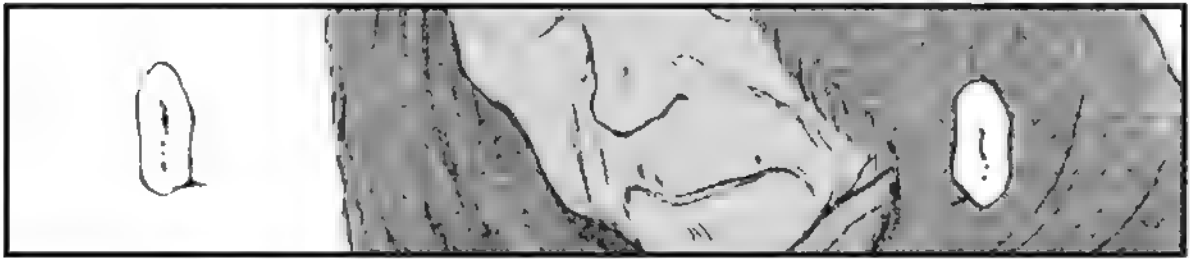
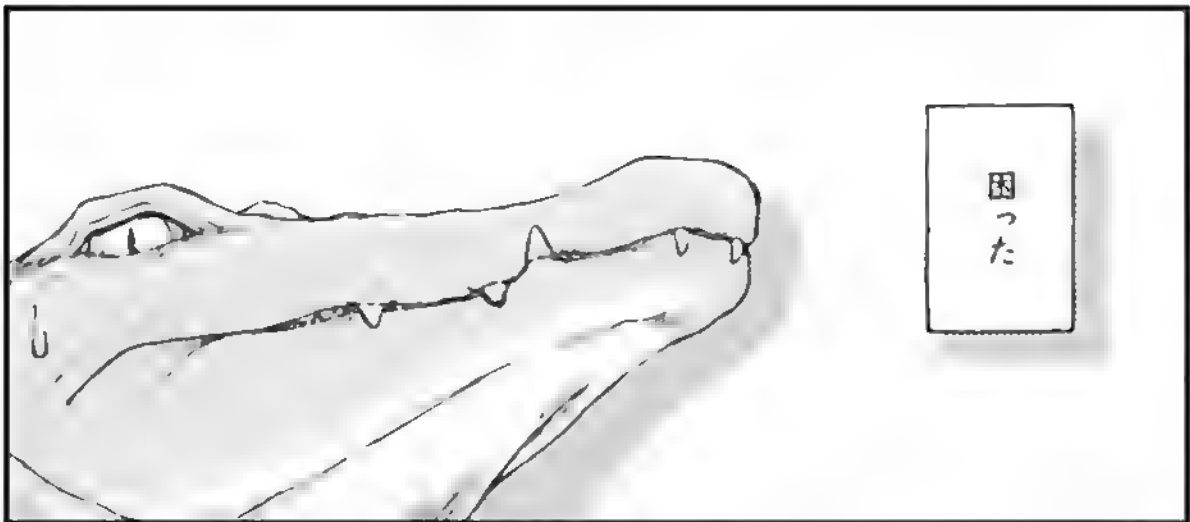
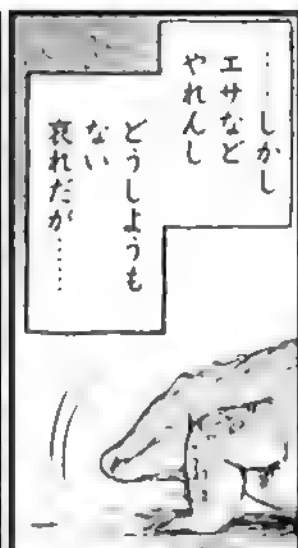
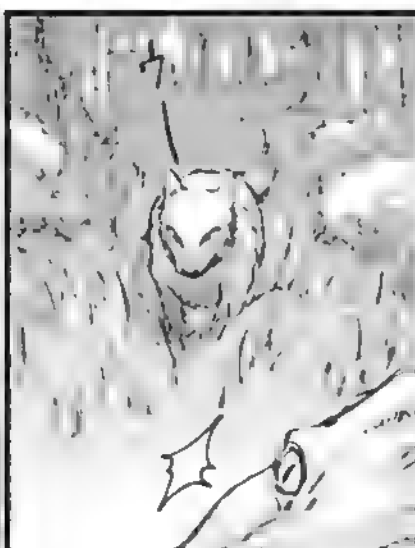
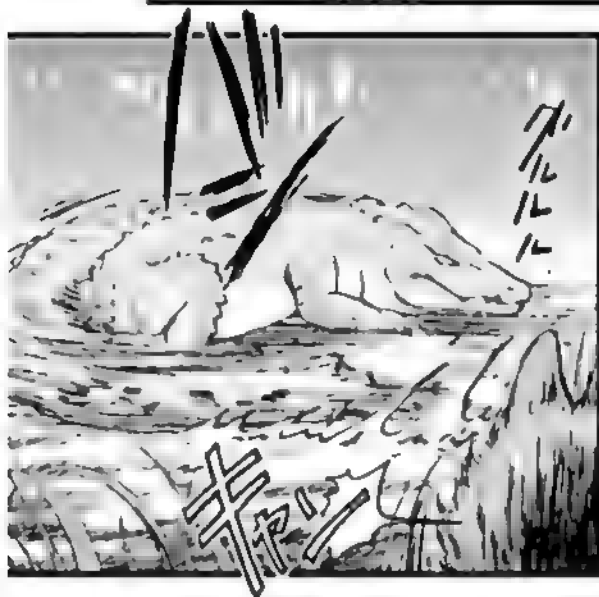
鰐の補食能力と
生存能力は高い上
鰐を食う動物は
この一帯にはいない
多分残りの
潜在異種分を
全部発現させたら
ほとんどヒト分が
残らない
残りを異種分で
置換する程度は
できると思う
しかし脳を
圧迫しないように
上手いこと頭蓋を
変形させたものだな
数十年前なら
ともかく
今の気候で
南の方なら
大丈夫だろう
……さあ
あいつらは私に
意識がなくなると
困るようだったが
ただ
分裂しない
成体の脳細胞を
操作するのは
無理だ
意識までは
変えられない
どちらが楽かは
……測りかねる
戻るか
死ぬか
ヒトを捨てるか
いずれにしろ
私の提示できる
選択肢は
ろくな物じゃない
……すまんな

……こうも自分の身体が変わると
もうこれが自分のものなのかよくわからないな
だけど今ものを考えてる自分がなくなって身体だけが動いていたら
それは……何なんだろうか
——オトキタ
私はもう身体など何でもいい
ただ独り心穏やかに過ごしたい
ただ一つだけ
どうしても頼みたいことがあるんだ
約束してくれないか——

――大丈夫だ
以前の事だって
ちゃんと
思い出せるだろう
そうだ
歌の一つも
気晴らしに
歌えばいい
捕った覚えのない
エサが散っていても
ユキハルの顔が
わからなくても
気がついたら
日の沈んでいる
日々が増えても
ここにいるのは
私のはずだ
大丈夫
大丈夫だから

なのに
何故
好きな歌の
続キ一つ
思いダせなイ
違う
違ウ
チがウ
違ウちガウ
チガう違ウ
ちょろ
続キ……

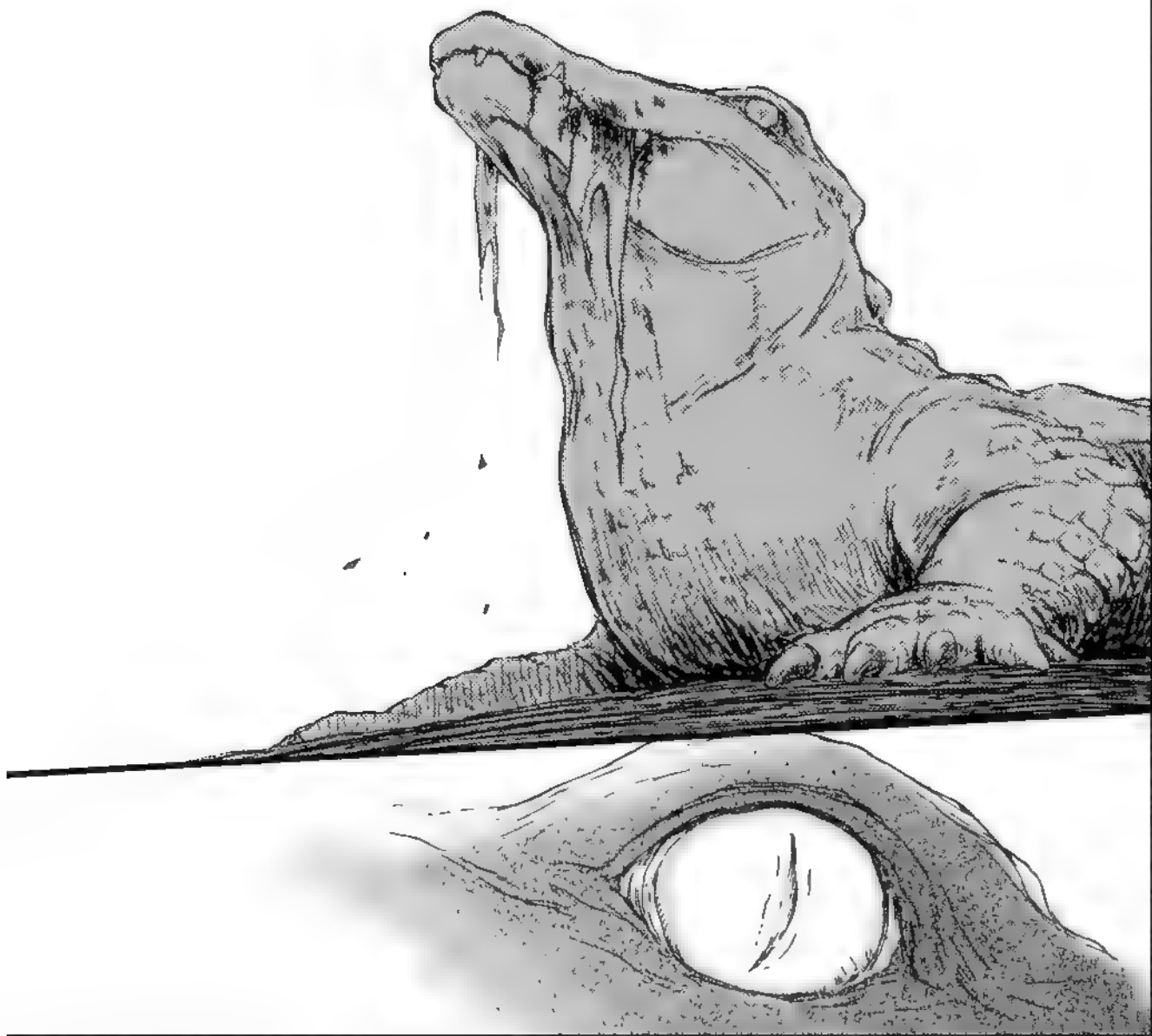
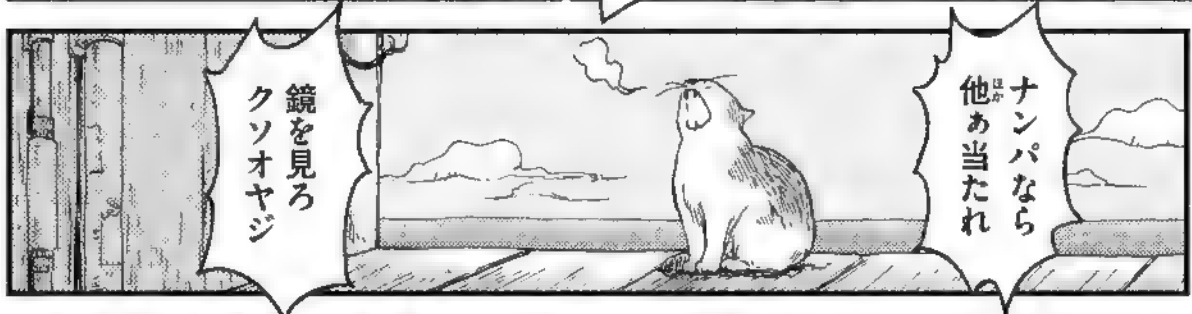
ドルン
どうして
皆
同じことを
バルルル…
……?

……
…
…
…
困った

なぜ
こんなところに
ヒトの子供が
いるのだ
いや――
ヒトというか
これは
ひょ
ひょ
キメラ子だ
かなりの
度合いの
…しかし
エサなど
やれんし
どうしようも
ない
哀れだが……
ウー
グルルル…
バッ
キャン
…どうしようも
ない…のだが…
…困った…
これは
〝食ってはいけないモノ〟
だから
ちちう

お前も
食っては
いけないモノだった
大丈夫――
待ってれば
誰か捜しになど
…
淡い期待で
丸2日近く
待っていたが
人が
やってくることは
なかった
ふ
寝てしマッタ
眠ッテるカ
大分弱ッテたが
ひょっとしたら
もウ
……?

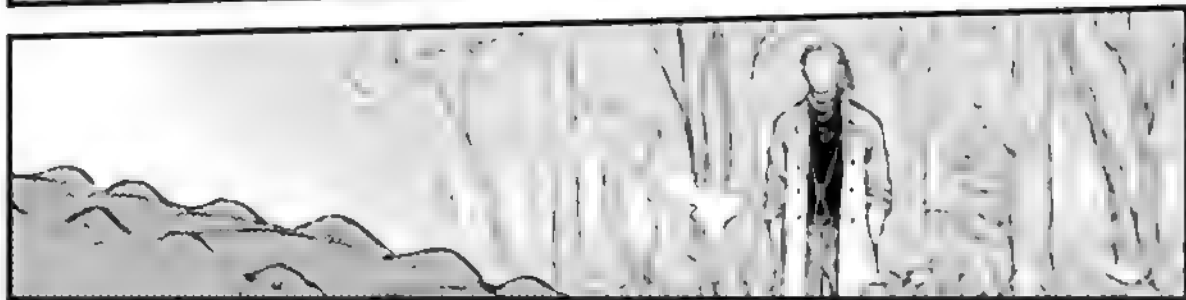
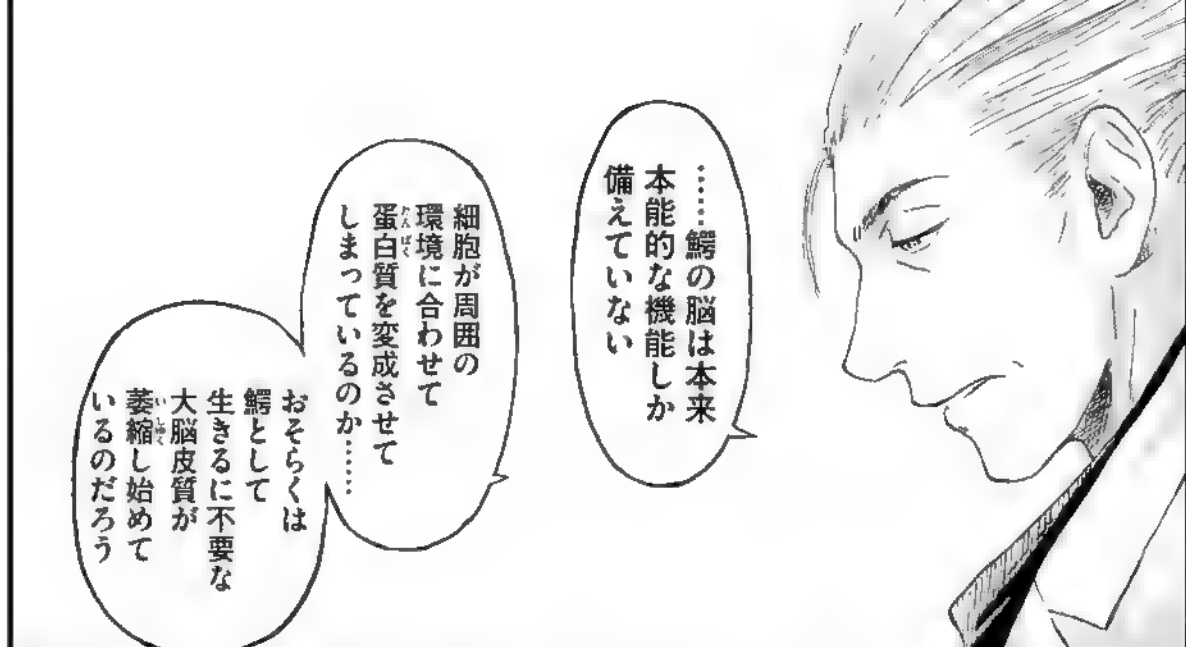
待て音喜多ァ!!
ぎゃあ

何だよオマエ
何でこんなとこに
いるんだよ!!
放せ!!
うるさい
お前を
捜してたんだ!
何もしてないぞ
私や
今は
今はな!
知っとるわ!!
ナンパなら
他ぁ当たれ
鏡を見ろ
クソオヤジ
こいつ
びっ
知らないか?
3年前に
ダム社の
輸送事故で
行方不明に
なったやつだ
……
……さぁ
ひょっとして
お前なら
知ってるかと
思ったんだが
ふーんそりゃ
残念だったね
じゃ

待て
何故目を逸らす
知ってる事があるなら言え
まさかまたお前が盗んだんじゃ
言え言わないとモグリのヒト操作でしょっぴくぞ
ないないないない!!盗ってない!!
……つか変わったのがいるって聞いたから下見に行っただけで
あいつらが勝手に事故っただけで
盗ってないもんね
……拾ったけど!!
駄目か
?
何だよ3年も前の話だろ
俺も好きで過ぎた事を追っかけたい訳じゃない
「鰐」を捜す羽目になってな
は?
──南の水没街でな

産婆がずっと南の禁入域に子供を捨てたと言うんだよ
捨てた赤子はキメラ子で父親が産婆に頼んだそうだが
半狂乱になった母親が通報して来たんだ
……所詮ヒト並みには生きれんで
生まれつきで出るようなのは長生きせん
長く生きんものは業者も買わん
けもの子産みと言われるよりはなかった事にした方がええんじゃ
旦那の気持ちも知らんであの馬鹿女が

産婆の話じゃ
その禁入域で
「鰐に食わせた」と――
俺もちょうど以前の――
……音喜多？
ガオオオオ
ドドド
ドアアア
オオオ
ちぃ
ちぃ

お前ハ
食ってはダメだ
ダメなモノだ
合ってル
合っテイル
よな?
合ってルと
言エ　言ってクレ
私ハ　私ハ
ワタワワ
パ
ウドー
やめろ
……血がでてるぞ
…オオ
オト
キ
タ

…ウドー
私は
わかるんだな
……ハルが心配していた
……もっと早く気づくべきだった
ダダいジョウぶ
オマエは食っテはイケナいモノダ
喋ルれル
――オ
オト キタ
私ハ
私は何の世界ヲ……見ていル？
オマエモ ヒトが美味そウに見エルか

……鰐の脳は本来本能的な機能しか備えていない
細胞が周囲の環境に合わせて蛋白質を変成させてしまっているのか……
おそらくは鰐として生きるに不要な大脳皮質が萎縮し始めているのだろう

……オマエもアノ鳥も何モワカらナクなッて
私ハあと何十年も生きるノカ

大型爬虫類の寿命は長い
脳の萎縮も必要な部分が残るならおそらく……

……オトキタ
私が──頼ンだ約束を覚えテルカ

……
もし──

いつか私が理性も何もなくなって
お前を食おうとしたら
——私を撃ってくれないか
唯一接するお前すら食料と思うなら
きっとヒトだった私の心は死んでいる
私でなくなったモノが私として生きているのは
とても気持ちが悪いんだ——
ハハ
なア
トトうに獣に変わっテモヒトの心ヲ失うノが怖イなんテ
滑稽ナ話だト思わナイか

……ヒトは自分が何なのかわからないと不安になる不思議な生き物だ

そう思うのは——お前がヒトの心を持っているからだよ

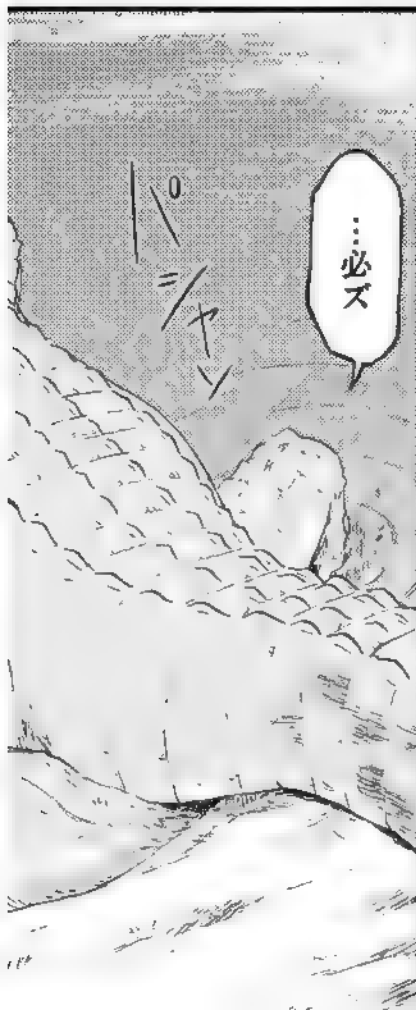
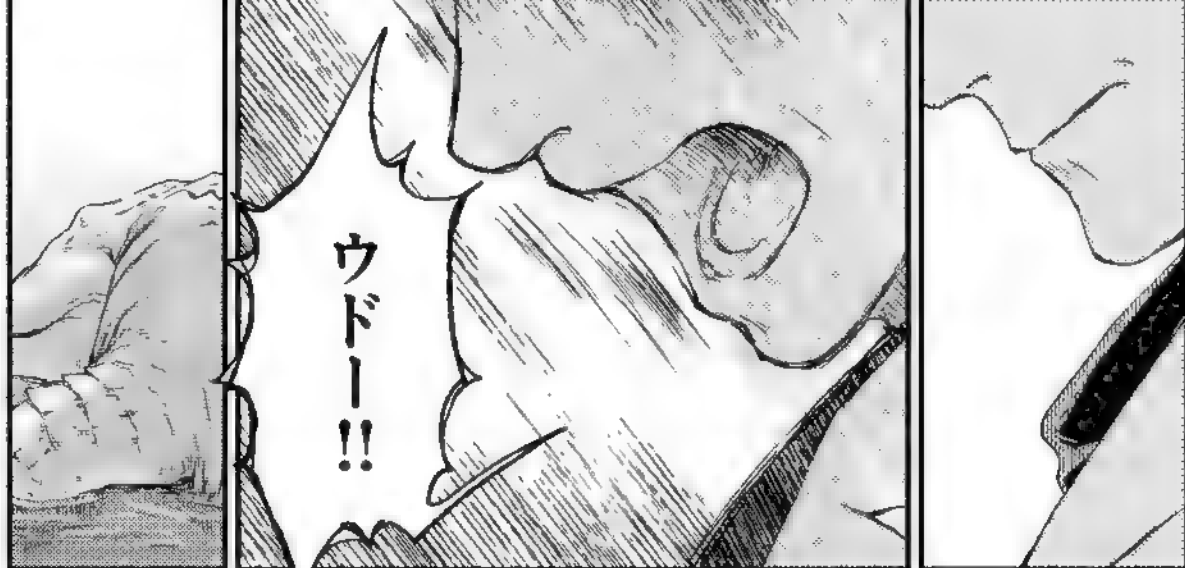
——オ

オ　オマエ　ハ　怖くナイのカ

ソノ　身体じゃ　オマエだって　マトモに身体ト　朽ちレるか　ドウカ

……自分勝手だから

できるなら　お前の寿命を　早める事を……　したくない　……と思っている

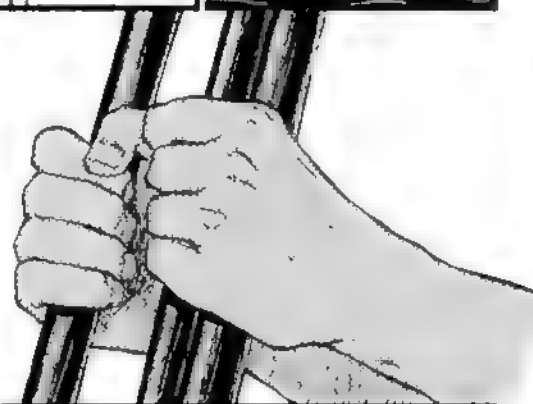
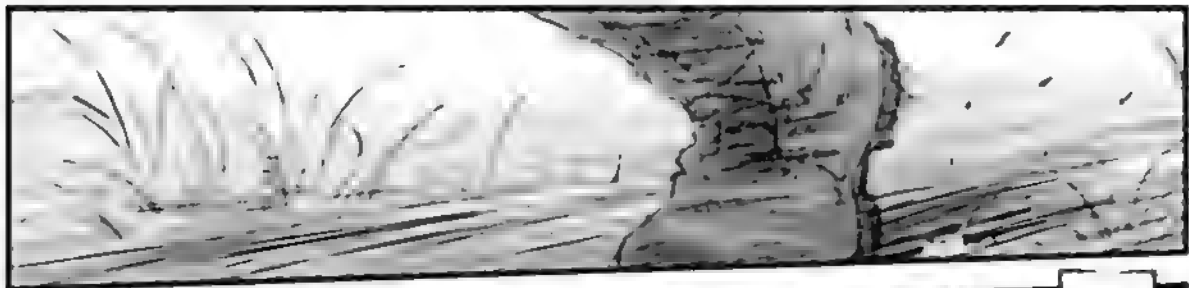
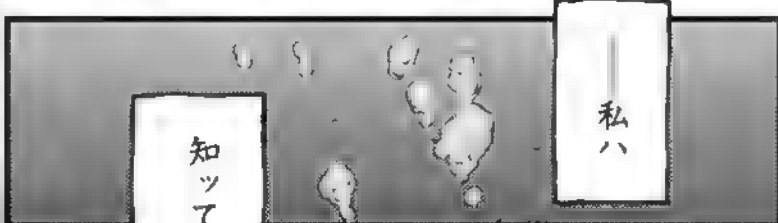
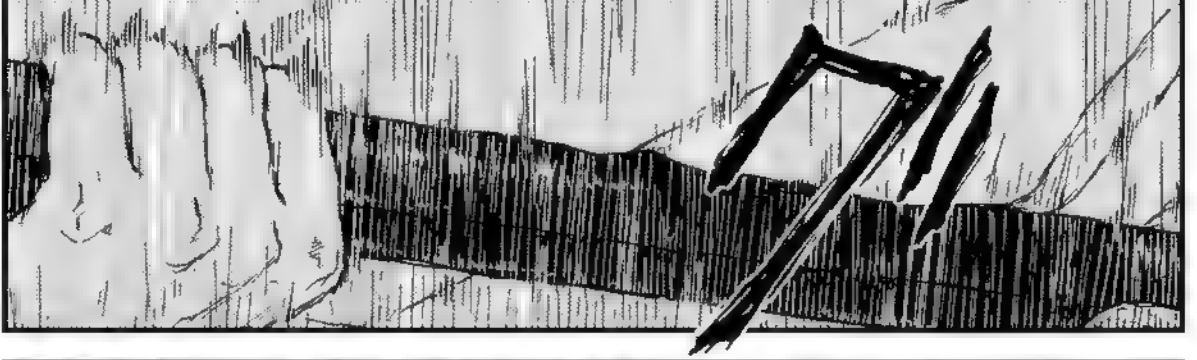
……心ノ寿命が尽きテモ
身体ノ寿命に従ウのが摂理ト言うのカ
どこまでも身体をいじることを厭わない人間がそれを説くのこそ滑稽だろう
だからこれは――私のエゴだ
きっと
…オトキタ
モウ 行け ココには来ルな
次 オマエがココに来れバ
私はオマエを食ってシマう カラ
…必ズ
パシャン

ウドー!!
——私は
お前との約束を
まだ覚えている
他人から見て
心の寿命など
推し量れない
だが自分で
線引きを決めるのは
つらいことだ
そのまま
身体の寿命に
従う選択だって
いいんだぞ

それでも
お前はあの約束を
私に忘れろとは
言わないのか
パシャン
アリガトウ
……さよなら
オトキタ
バシャ

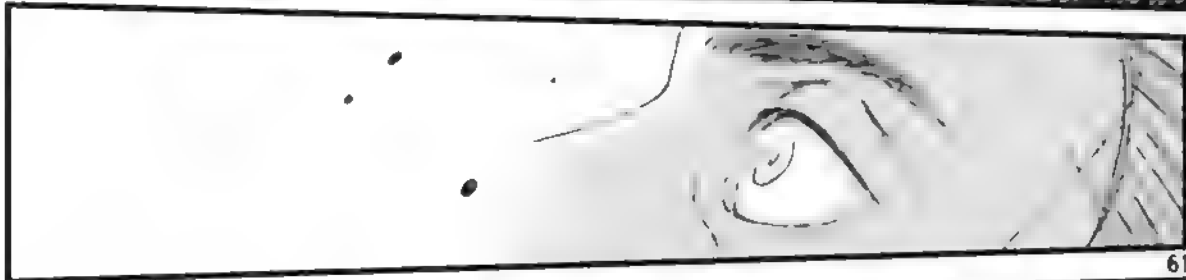
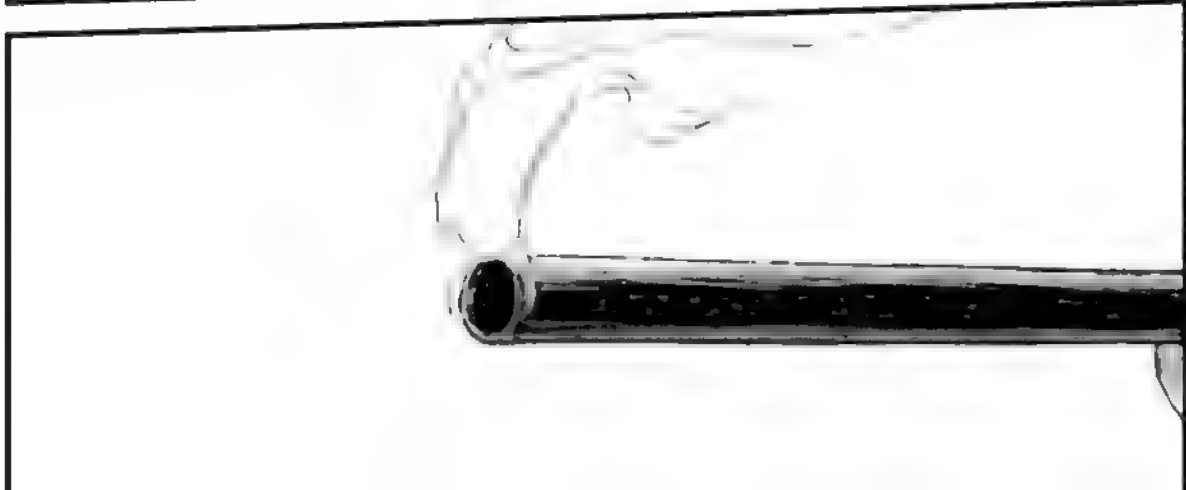
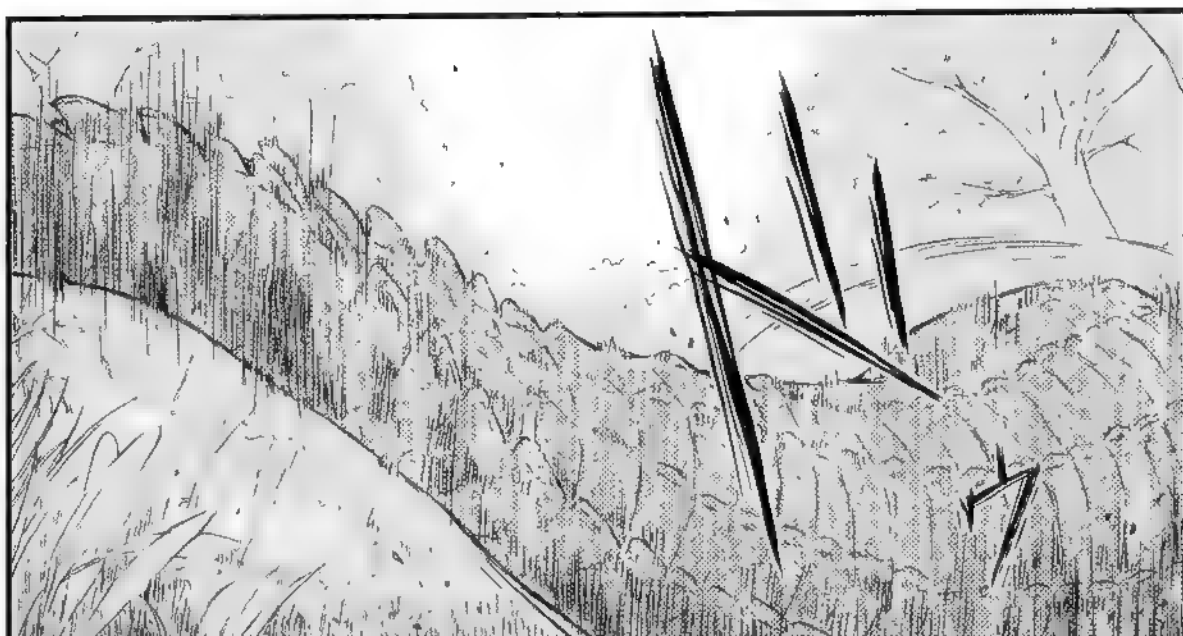
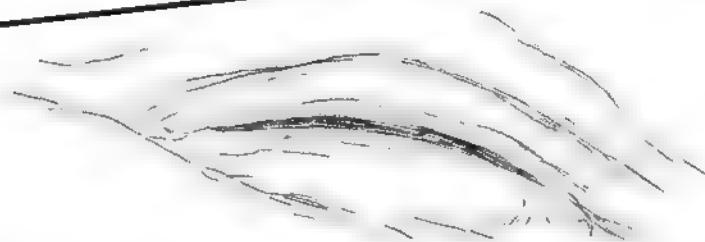
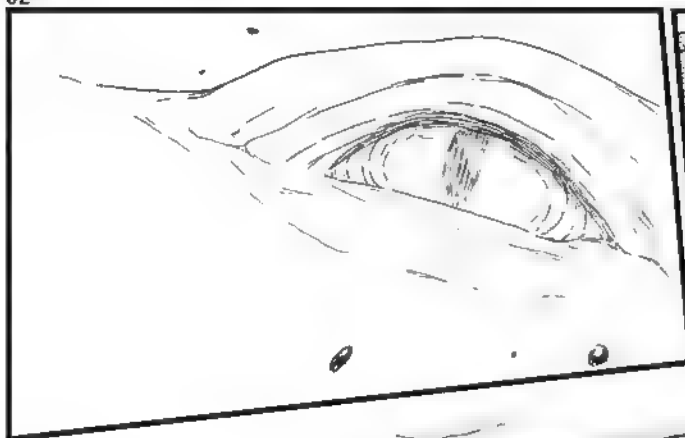
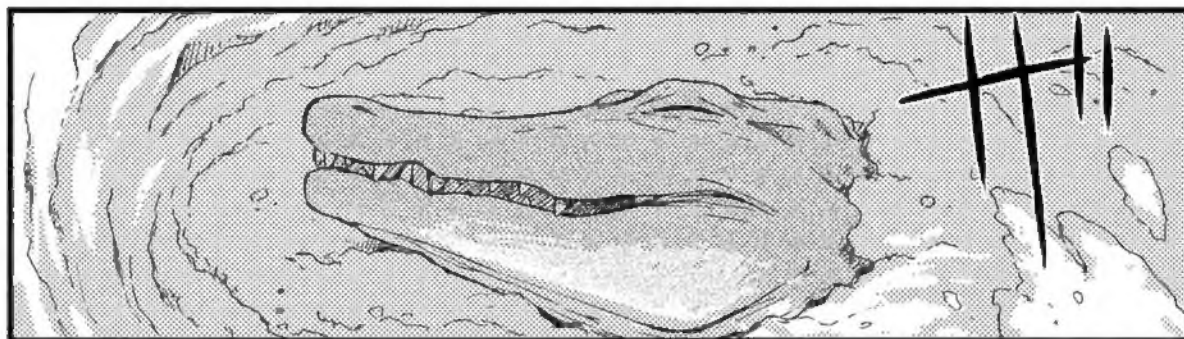
パタン
──オト
再捜索は
2日後だ

アイッ
来タ
ヤッぱり
私ハ
オ前ヲ
知って　いル

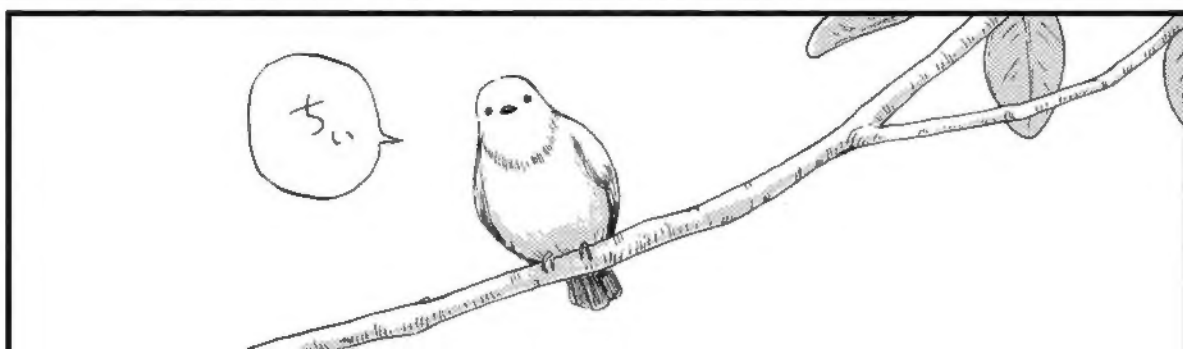
モウ
名前モ 思イ出せナイが
懐カシく
親しいモノだト
私ハ
知ってイる
ウドー!!
オ前ハ
「食ワなければいけないもの」ダト

ドキャッ
ガガッ
ザバッ
やめろっ
ウドー!!
私だ!
音喜多だ!!
グル
ググ
私が
わからないか
——それとも

ググ
――ウドー
お前
幸せ
だったか――
だったか？
心に取り残される
身体と向き合う
苦しさと
ひきかえに
しても
足る程に
お前の
望む日々を
たとえ一時でも
どんな形でも
手に入れる事が
できたか

だから
この約束を
俺達は
守るのだと
信じていいか
ウドー

ピチャン

加藤木達が怒るよ
ばれるもんか
勝手に無駄足踏んでろ
こいつがよく育つよ
馬鹿どもに回収されるより
よっぽど役に立つ

……お前
腕いいな
一発だった
……安心するよ
……心配に
なるのは
よく似てた
からかい
彼が
――大丈夫
今日も特に
変わったこと
なんかないよ

でも
僕も約束は
覚えてる方だから

その時は必ず
約束を守ってあげるよ
オト
……あぁ
お前ならきっと
撃ち損じたりなどしないでいてくれる
私は自分勝手だ
撃つ側のつらさを
知っていると言うのに
ちぃ
625

ご感想をお待ちしています!
……お前の友達はここだよ
ごめんな
春にはきっとたくさんの実がなる
食べてやってくれないか
気が向いたら
どうか私にも
一つ分けてやってくれないか
ウドー
その実を口に含めば、きっと聞こえてくる――あの歌声が。
鰐の歌う淵 おわり